



高岡市では、にこにこ笑顔の毎月25日は「たかおか健康づくりの日」としています。  
この日はご自身やご家族で、地域で、健康づくりに取り組みましょう。

みどころ

牧野地区は南北朝の争乱の敗戦後、後醍醐天皇の(第8皇子)宗良親王がこの地で3年間過ごされ古い時代から現代まで息づく町

1 樸館塚

南北朝の争乱の敗戦後3年間本拠として過ごした親王の住居は黒木の丸柱で造った粗末なもので、村人は「黒木の館」と呼んでいた。しかし、当時親王の探索が厳しく証拠を隠すために館を埋め、塚とし「樸館塚」と呼んだ。碑名は江戸時代の儒教者 海保青陵で、長福寺住職によって文化7年(1810年)建立された。



2 長福寺

宗良親王は、尊澄法親王と称し、元弘の乱で、父である後醍醐天皇を助けたが、鎌倉幕府に捕えられ讃岐に流された。後に宗良親王と名乗り、伊勢、遠江、越後、越中、を転戦した。越中奈古の浦に海路で到着したのは興国3年(1342年)で、牧野の地で最初に宿をとったのが、上牧野の長福寺であったと言われている。



境内には高岡市保存樹木ボダイジュ、スダジイの大木がある。また、あやまち寺とも呼ばれ、カッパから骨接の治療の技術を教わったという言い伝えをもつお寺です。「藁門」と呼ばれるカヤ葺きの山門から入るとあやまちの治りが早いと言われている。

3 いしぶみ(作者 宗良親王) …下牧野公民館



「故さとの人に見せばや立山の  
千年ふるてふ雪の曙」  
「玉くしげ二上山を見るたびに  
都のふじと思いわびぬる」  
「今はまた問い来る人も奈古の浦に  
しほたれてすむ身とはしらなん」  
「思いきやいかに越路の牧野なる  
草の庵に宿からむとは」